

これまでに急性期帯状疱疹痛で当科を受診された患者様へ

奈良県立医科大学 麻酔・ペインクリニック科では、「破局化思考と急性痛の慢性化との関連」という臨床研究を実施しております。この研究は急性期帯状疱疹痛で受診された患者様の破局化の強さが、痛みの慢性化と関連があるかを調べることを目的としています。破局化とは、痛みに関連した個人の認知や情動の一つの傾向ということができ、現在および将来の痛みに起因する障害を過大評価するとともに、そのような考えからも離れられなくなっていく過程です。これまでの研究で、慢性疼痛の患者様では破局化の強さと治療抵抗性（難治性）との関連が示されています。

この臨床研究の概要についてご確認いただき、問い合わせなどがありましたら「問い合わせ先」へご照会ください。

この臨床研究は、奈良県立医科大学医の倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て行います。

【研究責任者】奈良県立医科大学 麻酔・ペインクリニック科 藤原 亜紀

【研究の目的】破局化（catastrophizing）は、痛みに関連した個人の認知や情動の一つの傾向ということができ、現在および将来の痛みに起因する障害を過大評価するとともに、そのような考えからも離れられなくなっていく過程です。破局化は、痛みへの対処行動に影響されることなく単独で痛みの強さや痛みによる障害、精神的苦痛に関与しており、予後の予測因子となることが知られています。

その多くの研究は慢性疼痛に対しての評価であります。すなわち、慢性疼痛患者の破局化を計測し、その患者に対してなんらかの介入を行ったのちに痛みの低下を測定したところ、破局化の強い患者ほど痛みの低下が少ないということが示されています。

しかし、急性痛に関しては、破局化の強い患者の痛みが慢性化するのか、痛みが慢性化するうちに破局化が強くなるのかという命題は解決されていません。

奈良県立医科大学ペインセンターでは診療の一助として、初診時に全患者に質問票（pain catastrophizing scale）を用いて破局化を評価しています。

今回、急性期神経障害性疼痛である帯状疱疹痛の患者に対して、初診時の破局化の程度と帯状疱疹後神経痛（慢性疼痛）の発生の関係を調べ、急性痛から慢性疼痛への移行と破局化程度の間関係を調べます。

【研究期間】 研究の対象となる期間 2018年5月1日から2018年12月31日

全体の研究期間 倫理審査承認日～2020年12月31日

【研究の方法】 2018年5月1日～2018年12月31日に、急性期帯状疱疹痛で奈良県立医科大学ペインセンターを受診された患者様を対象とし、電子カルテから年齢・性別・既往歴・血液検査・画像所見（一般撮影、CT、MRI）・治療・経過・転帰・合併症の有無などを抽出し、検討をおこないます。

【個人情報の取扱い】

カルテIDや氏名などの個人情報を研究用IDに置きかえて使用するため、あなたの個人情報が外部へ漏れることはありません。カルテIDと研究IDの対応表は厳重に研究責任者において管理されます。

研究の成果は、学会や学術誌などで公表されますが、この場合も、個人が特定される情報が公開されることはありません。

【利益相反】 この研究は、特定の企業・団体等からの支援を得て実施するものではありません。

※ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができますので、お申し出ください。

※この研究のカルテ情報使用についてご了承いただけない場合や、研究に対する問い合わせがありましたら、下記までご連絡ください。ご了承いただけない場合でも、今後の治療などに不利益を受けることはありません。

【問い合わせ先】

奈良県立医科大学 麻酔・ペインクリニック科

研究責任者 藤原 亜紀

Tel : 0744-29-8902

Fax : 0744-23-9741